

○「大手前3丁目」 (もと大手前之町)
(谷町筋の東部から上町筋まで、北は大手通から本町通までの地域)

*「大阪陸軍兵器支廠・大手門前兵器庫」ほか
(現・「大阪府警本部」、「大阪国際がんセンター」ほか)

「大阪陸軍兵器支廠&大手門前兵器庫」

- ・明治30年(1897)9月、大阪陸軍兵器本廠が設置され、翌31年5月に大手門前の輜重廠倉庫・跡(大阪府庁の筋南付近)に移転する。
- ・明治36年に大阪陸軍兵器支廠と改称されたあと、大正2年(1913)5月、大阪城内の二の丸(多聞櫓の東)に移転した、戦後、二の丸に設置された兵器庫を含む全ての関連施設は、近畿管区警察学校に転用されたが、昭和34年には大阪城公園として整備された。
- ・大阪陸軍兵器支廠のあとは、大正7年6月に開設された第4師團兵器部の大手門前倉庫とされた。

「大阪陸軍被服支廠・被服倉庫」 現・府警本部

- ・明治37年(1904)、法円坂1丁目に置かれた大阪陸軍被服支廠の被服倉庫があった。

「大阪陸軍幼年学校」

- ・明治30年(1897)6月に大阪陸軍地方幼年学校として開校し、明治31年2月、この地に新築された校舎に移転してきた。大正9年に「大阪陸軍幼年学校」と改称される。卒業生は、「陸軍中央幼年学校」(東京)に進学して2年間の教育を受けた後、士官候補生として「陸軍士官学校」に進学した。
- ・世界的軍縮傾向のなか、大正11年3月に廃校となり、その跡地に「第4師團長官舎」が置かれた。
- ・なお、昭和15年3月に河内長野市(現・長野北高校)で再校したが、敗戦で廃止された。

「大阪憲兵隊本部」(のち「中部憲兵隊司令部」)

- ・明治17年2月に東京憲兵隊大阪分遣憲兵中隊として津村別院内に創設された。
- ・明治40年10月に大阪憲兵隊と改称され、大正6年(1917)3月、大阪府警本部の南東角部に庁舎が新築され移転してくる。
- ・終戦後は、大阪財務局の管理下に置かれて昭和31年には庁舎が撤去され、大阪府警庁舎が建設される。

「歩兵第7旅団司令部」、「大阪聯隊區司令部」

- ・明治21年(1888)5月に歩兵第七旅団司令部が開設され、同司令部内に大阪大隊區司令部が創設された。その庁舎は、現・大阪府警本部の西部におかれていたが、明治29年4月に大阪聯隊區司令部と改称され、現・大阪府警本部の北側に移転した。

「自衛隊大阪地方連絡所」 大手前町4丁目へ

- ・昭和30年(1955)9月、陸上自衛隊大阪地方連絡部として編成され、翌31年には「自衛隊大阪地方連絡所」に改編された。大阪府庁の南側(現在の大阪国際がんセンター敷地内・北東部)にあったが、現在は「自衛隊大阪地方協力本部」として、大手前4丁目の大阪合同庁舎第2号館に移転している。

「大阪防衛施設局」

- ・昭和22年(1947)9月、大阪特別調達局として発足(昭和37年11月、大阪防衛施設局に改組)し、自衛隊大阪地方連絡所の南側にあったが、現在は「近畿中部防衛局」と改組され、大手前4丁目の大阪合同庁舎第2号館に移転している。

「舎密局跡」 大阪府警本部・南西隅の築山

- ・”舎密(せいみ)”とは、オランダ語で理・化学の意味で、明治2年(1869)5月この地に化学技術の研究・教育および勸業を目的として官営の「大阪舎密局」が創設された。(この地は、もと京橋口御定番屋敷の跡地である。)



その創設に関わり、教頭を勤めたのがオランダ人化学教師のハラタマであった。

・その後、「開成所」、「第一番中学」、「開明学校」、「大阪英語学校」、「大阪専門学校」、「第三高等中学校」などと改称されたが、明治22年(1889)8月には京都に移転されて、同27年9月に「第三高等学校」となり、京都帝国大学へとその流れが引き継がれている。

「大阪英語学校址」 大阪府庁別館の北側

・明治2年(1869)、「舎密局」とあわせて「洋学校」(理科・史科・政科・兵科・文科・語科など基礎的な分野を系統的に教える学校)が開校したが、両校が統合して「開成所」となり、明治7年(1874)10月には「大阪英語学校」と改称されて現・大阪府公館付近に設置された。この学校では、単に語学だけでなく外国語による一般教養科目の授業が行われていたが、その後、明治22年(1889)には京都へ移転し、「第三高等学校(京都大学の前身)」となった。

・現・大阪府公館の道向い南寄りに、「大阪英語学校址」と刻した明治5年の明治天皇行幸を記念する「明治天皇聖蹟(セイチョク)」碑が建てられており、横の説明板には、「大阪英語学校跡(中等・高等教育発祥の地) この地に、明治7年10月、大阪英語学校が設置された。起源は明治2年大阪天満に開設の大阪府立洋学校にさかのぼることができる。この学校では、単に語学だけでなく外国語による一般教養科目の授業が行われ、広く西日本各地から生徒が集まる特色ある存在であった。大阪英語学校という名称は、明治12年まで続いたが、その後、次々と名称が変わり、ついに、明治22年には、学校そのものが京都に移され、やがて第三高等学校(現在の京都大学)となった。大阪府」とある。

「内務省・大阪司薬場」 (法円坂1丁目の項・参照)

・もと洋学校の地に、明治8年(1875)3月、官営の医薬品試験所として「大阪司薬場」(大阪衛生試験所の前身)が設立された。

・明治13年(1880)11月、中之島(現・日銀大阪支店の地)に新庁舎が完成して移転した。

・その後、明治20年に「大阪衛生試験所」と改称され、同31年10月には、京橋3丁目に移転し、戦後の一時期空白期間があったが、昭和24年(1949)に「国立衛生試験所大阪支所」として再興され、昭和27年12月にここ法円坂に新庁舎が完成し移転してきた。

・「舎密局跡」碑と同じ所に、「大阪衛生試験所 発祥の地」と記した石板碑が置かれている。

「大阪府警察本部」 大手前3丁目1-11

・明治7年(1874)大阪府庁に警察課がおかれ、その後、「大阪府警察本署」、「大阪府警察部」などと改称されたが、戦後、GHQの指示で制定された旧警察法に基づいて、昭和22年12月、国家地方警察大阪府本部と大阪市警察局などの自治体警察に再編され、国家地方警察と大阪市警察局が大阪府庁内に置かれた。しかし、府庁内では窮屈であったため、翌23年3月に大阪市警察局は大阪城内の旧・帝国陸軍の中部軍管区司令部庁舎(のちの大阪市立博物館)に移転し、翌年9月に「大阪市警視庁」と改称された。

・その後、昭和29年の「新警察法」の公布によってこれらの組織が一本化され、新たに各都道府県警察として「大阪府警察本部」が発足し、昭和34年2月に本部庁舎が現在地(馬場町交差点の北西角)に完成し移転してきた。しかし、老朽化と手狭になったこともあり、平成19年に地上10階・地下3階建ての新庁舎(設計は黒川紀章)が竣工し、現在に至っている。なお、平成10年から始まった新庁舎の建設工事中に豊臣時代の大阪城堀跡・三ノ丸遺跡や難波宮跡の遺構が見つかり発掘調査が行われている。



左側は歴史博物館とNHK大阪放送会館

「大阪家庭裁判所」(旧庁舎)

- ・大阪家庭裁判所は、昭和24年1月に大阪地裁調停庁舎内(若松町)に開設され、昭和30年3月に大手前之町の本町通り沿い・大阪府警本部西隣に地上2階・地下1階建ての本庁舎が竣工し、昭和42年には5階建新館が北側に増設された。
- ・現在は、平成10年2月に南側の大手前4丁目に新庁舎が竣工し移転している。

「大阪国際がんセンター」(旧「大阪府立成人病センター」)大手前3丁目1-69

- ・昭和34年、国内初の生活習慣病専門の医療機関として、「大阪府立成人病センター」が森之宮に開院した。その後、がんと循環器(心臓と血管)疾患に特化した病院へと進化を遂げてきたが、建物の老朽化も進んだことから現地建替えと新病院の建設・移転について検討された結果、府庁本館南側の駐車場に新病院が建設されることになり、平成29年3月に「大阪国際がんセンター」として移転・開院した。
- ・新病院は地上13階・地下2階建てで、4階が中央手術室とICU、8階から13階が病棟(病床数=500床)になっている。
- 病院は特定機能病院に位置づけられ、がん専門診療科と循環器病専門診療科(心臓疾患、脳卒中等)を持つ。
- また、病院内には”研究所”と”がん対策センター”が併設されている。

「大阪府庁別館」 大手前3丁目2-12

- ・昭和39年(1964)に竣工した地上10階・地下1階建て大阪府庁舎で、総務部庁舎室、都市整備部、福祉部、健康医療部、教育庁などが入っている。

「大阪府新別館南館」 大手前3丁目1-43

- ・平成7年(1995)に竣工した地上10階・地下1階建て大阪府庁舎で、総務部人事局、大阪府市町村振興協会などが置かれ、地下1階には「パスポートセンター」、1階~4階に警察共済組合運営の宿泊施設「ホテル・プリムローズ大阪」が入っている。

「大阪府新別館北館」 大手前3丁目1-43

- ・平成9年(1997)に竣工した地上10階・地下1階建て大阪府庁舎で、新別館南館との間が連絡通路で結ばれており、中央府税事務所が大半を占め、ほかに危機管理室、大阪府立文化情報センター(さいかくホール)などが置かれている。
- 中央府税事務所は府下の事業税、法人府民税、地方法人特別税及び不動産取得税を所管しており、平成25年4月になにわ西・なにわ東府税事務所を統合して中央府税事務所となり、この庁舎に移転してきた。

「大阪府庁分館6号館」 大手前3丁目1-88(大阪国際がんセンターの東側)

- ・昭和34年に建てられた地上3階・地下1階建て建物で、大阪府契約局がある。

○「大手前4丁目」 (もと法円坂町)

(谷町筋の東部から上町筋まで、北は本町通から中央大通までの地域)

「野戦砲兵第4聯隊」

- ・その源は、明治3年に大村益次郎が編成した「大阪砲兵隊一番大隊」にあり、その後、「大阪鎮台」に編入されて明治5年(1872)4月にはこの地に兵営が設置された。
- ・萩の乱(明治9年)や西南の役(明治10年)で活躍し、明治22年に「野戦砲兵第4聯隊」、明治40年には「野砲兵第4聯隊」と改称されるが、大正8年(1919)11月、和泉市伯太(ハカタ)町(現・陸上自衛隊・信太山駐屯地)に新兵営が設けられ転営した。
- ・そのあとに移ってきたのが、「輜重兵第四大隊」である。

「輜重兵第4大隊」 (「大手前2丁目」の項・参照)

- ・「輜重兵第4大隊」は、大正9年(1876)5月、大手前2丁目から転営してきたが、昭和9年(1934)3月には再び堺市・金岡(現・金岡公園)に転営し、昭和11年6月に「輜重兵第4聯隊」と改組された。

「大阪市立中央体育館」

- ・昭和34年は大阪市制実施40周年の年であり、日本生命保険(株)も創業70周年であった。そこで、日本生命では、市民の体位向上と福祉増進を願って、大阪市に体育館の建設費を寄付することになり、昭和34年(1959)7月に「大阪市立中央体育館」が開館した。

- ・地下1階・3階建てで2・3階は観覧席となり、夜間照明も完備されて、当時は東洋一の規模と設備を誇るアマチュアスポーツの殿堂であった。
バレーボールや柔道・剣道などの競技大会場として利用され、日本対ソ連対抗バレー大会も開催されている。なお、昭和61年の大相撲春場所がここで開催された。これは大阪府立体育館が全館改修工事中であったため代替会場とされたものである。
- ・老朽化もあり、また平成9年の”なみはや国体”を控えて新体育館建設が計画され、平成9年3月、港区八幡屋公園に新しい「大阪中央体育館」が完成した。
新体育館は、収容人員1万人でバスケットボール・バレーボール・テニスのコート4面がとれる”メインアリーナ”と主として市民大会規模の競技で用いる”サブアリーナ”からなり、平成30年から5年間契約の命名権によって、『丸善インテックアリーナ大阪』と呼称されている。
- ・この跡地に、次に掲げる「大阪歴史博物館」と「NHK大阪放送会館」が新設された。

「NHK大阪放送会館」 大手前4丁目1-20

・大阪歴史博物館と共同で難波宮跡に建設された複合施設で、NHK大阪放送会館は平成13年5月に竣工し、11月から放送が開始された。地上18階+塔屋2階・地下3階建(高さ134m)の建物で、大阪歴史博物館との間に半球形の「アトリウム」があり、共通エントランスであるとともに公開番組やイベントなどを行う、“にぎわいの広場”となっている。

・客席数1417席の「NHK大阪ホール」は関西の文化・伝統芸能などの発信基地として、公開番組やコンサート、シンポジウムなどに利用され、ハイビジョン番組の制作に対応した最新設備を備えている。1階の「BKプラザ」には公開放送を開くプラザスタジオと最新の放送技術を体験できる展示施設があり、いつでも自由に見学できる。

また、地下には、建設工事中に発掘された難波宮遺構を保存した展示室が設けられており、大阪歴史博物館が見学ツアー(毎日)を催している。

(移転前の「大阪中央放送局」については、下記・馬場町の項を参照)



右＝NHK大阪放送会館
左＝大阪歴史博物館

「大阪歴史博物館」 大手前4丁目1-32

・平成13年4月竣工の地上13階・地下3階建(高さ83m)の建物で、“風をはらんだ帆船”をモチーフにした形をしている。大阪城内の旧「陸軍第4師団司令部庁舎」に置かれたいた「大阪市立博物館」が移設され、併せて名称変更された。

・館内の7階から10階は“都市おおさか”をコンセプトにした常設展示室、6階は時々のテーマを定めた特別展示室となっており、10階の”難波宮の時代”フロアからは難波宮跡公園が見渡せる。

・また、大阪歴史博物館前広場や放送会館1階フロア床部に埋められた赤く丸いタイルの印(シルシ)は、古代にこの付近に立ち並んでいた高床倉庫群の柱跡を示しており、同博物館の南側園地に建つ茅葺きの高床倉庫は、法円坂遺跡で見つかった古墳時代の遺構を復元したものである。

「大阪営林局」

・現・NHK大阪放送会館の西側(現・大阪家庭裁判所)に大阪営林局があった。もとは「大林区署」と呼ばれ、明治19年に設置されたが、大正13年12月に大阪営林局と改称され、昭和34年11月に庁舎が新築されて内久宝寺町から移転してきた。

現在は、「近畿中国森林管理局」と改組され、北区天満橋1丁目に移転している。

「大阪家庭裁判所」 大手前4丁目1-13

・平成10年2月に地上8階・地下1階建ての新庁舎が竣工し、大手前3丁目から移転してきた。

「大阪市立東中学校」 大手前4丁目1-5

・都心部の人口減少によって、「市立東中学校」(昭和22年創立・島町1丁目)と「市立船場中学校」(昭和25年創立・糸屋町1丁目)が統合され、平成元年4月に新校舎が新設されて新しい「大阪市立東中学校」として開校した。(後記、「島町1丁目」の項を参照)

「大阪合同庁舎2号館本館」 大手前4丁目1-67
・昭和43年7月竣工の中央大通りに面した8階建ての合同庁舎で、裏手に別館がある。
「大阪労働局」(もと大阪労働基準局)、「近畿中部防衛局」、「自衛隊大阪地方協力本部」、「近畿管区行政評価局」などが置かれている。
・このうち近畿中部防衛局は、かつて「大阪防衛施設局」として大手前3丁目にあったもので、平成19年に近畿中部防衛局と改組され、自衛隊施設の整備・装備品調達を担う。
自衛隊大阪地方協力本部は、かつて「自衛隊大阪地方連絡所」として大手前3丁目にあったもので、平成18年7月に改称され、自衛隊に関する地方の総合窓口となっている。
近畿管区行政評価局は、かつて「近畿管区行政監察局」として法円坂1丁目にあったもので、平成13年1月に近畿管区行政評価局と改組され、総務省の出先機関として近畿各府県の政策評価・行政評価・監視などを担っている。
なお、かつて2階にあった「大阪法円坂郵便局」は、平成21年に「大阪谷町四郵便局」と統合され廃止されている。

「大阪合同庁舎第4号館」 大手前4丁目1-76(谷4交差点・北東角)
・平成5年竣工の中央大通りに面した地上17階・地下3階建ての合同庁舎。
「近畿財務局」、「近畿厚生局」、「近畿運輸局」、「大阪航空局」、「外務省大阪分室」、「国土地理院近畿地方測量部」や「大阪管区气象台」などが置かれている。

○「法円坂2丁目」

(谷町筋の東部から上町筋まで、北は中央大通から内久宝寺通までの地域)

「歩兵第8聯隊」 (後記、「法円坂1丁目」の項を参照)
・第4師団の中核部隊で、明治7年(1874)5月に歩兵第10大隊と第14大隊を基幹として編成され、現・「大阪医療センター」(もと「国立大阪病院」)の地北半分に兵営が設けられた。
・明治30年8月、上町筋を隔てた東側(現・法円坂1丁目の難波宮跡公園の地)に新しい兵営が設けられ、移転した。
そのあとに「歩兵第37聯隊」が兵営を構える。

「歩兵第20聯隊」
・明治17年(1898)6月に編成され、「歩兵第8聯隊」の南側に兵営を構えたが、明治31年8月、福知山町に新築された兵営に移転し、第4師団から第10師団に所属変更された。

「歩兵第37聯隊」
・明治29年11月、歩兵第8聯隊において新たな部隊の編成に着手され、明治31年(1898)12月に、「歩兵第37聯隊」が編成されて、もと歩兵第8聯隊と歩兵第20聯隊の兵営に置かれた。
・終戦後、跡地は大阪財務局の管理下に移され、昭和22年4月に国立大阪病院が河内長野から移転してきた。
・現在、大阪医療センター構内に「克忠」の碑(大正11年建立)、「歩兵第37聯隊跡」碑(昭和61年、歩37会が建立)および「歩兵第37聯隊創立100周年記念碑」が建っている。

「兵部大輔大村益次郎卿殉難報國之碑」 法円坂2丁目1
・昭和15年(1940)11月、大村卿遺徳顕彰會により、卿の識見と功績を後世に伝えるため建立された。(上町交差点・北西角)
・大村益次郎は、長州の生まれで、弘化3年(1846)23歳のとき来坂、適塾に入って僅か1年で塾頭になった。
明治2年(1869)、兵部大輔(ダイユウ)に任ぜられ、近代陸軍兵制の確立に努力した。しかし、不平士族の反感をうけ、同年9月、京都で襲撃された。そのとき右脚に重傷をおったが、京都では適切な治療を受けられず、現在の碑の近くにあった「浪華仮病院」で、右脚切断の手術を受けたが、すでに手遅れで敗血症のため死亡した。



「浪華仮病院」

・明治新政府に本格的な医学専門教育学校と病院の建設を命ぜられた大阪府が、明治2年(1869)、緒方惟準を院長、オランダ人医師ボードウィンを主席教授として、上本町4丁目

の大福寺の境内に設立した。しかし、財政難のために本格的な組織として拡張することはできず、半年後にいまの国立大阪病院付近に移転。その後、大阪大学医学部の前身である「大阪府病院」となった。

- 「大阪医学校跡・大阪師範学校跡」もと鈴木町…現・大阪医療センター敷地
- ・現「大阪医療センター」の北東角に「大阪医学校跡・大阪師範学校跡」碑があり、そこには、「大阪医学校は、明治2年(1869)11月にこの地に開設された。大阪師範学校は、明治5年(1872)9月に廃止となった医学校跡地に明治6年8月に開設され、明治11年2月に学制の改革によって廃止された。大阪市教育委員会」と記され、側に2基の「明治天皇聖蹟(チヨク)」碑も建てられている。
 - ・ここでいう大阪師範学校は官立(国立)のもので、廃校となったあと、その校舎・校地は大阪府に移管され、明治11年4月に中之島常安町にあった「大阪府師範学校」(明治6年9月開設)が移設された。しかし、明治14年2月にはこの校舎を官立「大阪中学校」にあてることとなり、大阪府師範学校は常安町の旧校舎へ戻った。
 - ・「大阪中学校」は、大阪英語学校(明治7年設置)が明治12年に「大阪専門学校」に転換され、明治13年に官立「大阪中学校」となったもので、明治19年4月、「第三高等中学校」となり、明治22年9月に京都へ移転して明治27年には「第三高等学校」(京都大学の前身)に改組された。

③「北野高校」(もと北野中学校)の前身は、府立「大阪中学校」(大阪府第一番中学校)である

- 「国立病院・大阪医療センター」(もと「国立大阪病院」) 法円坂2丁目1-14
- ・昭和20年9月、米軍の接收により河内長野市の陸軍幼年学校跡地に移転した「大阪第一陸軍病院」が、同年12月に厚生省に移管されて「国立大阪病院」となり、22年4月、現在地(法円坂町)へ移転してきた。
 - ・昭和54年から、医療技術の高度化や疾病構造の変化に対応して病院の近代化を図るため、病院の整備工事に着手し、昭和60年3月に地上12階・地下1階建ての新病院が完成した。現在の診療科数は36、病床数は694床で、外来患者は1日1000人を数えている。敷地内には本館の他に、緊急災害医療棟(平成13年竣工)、臨床研究センター(平成20年4月設置)や附属看護学校がある。
 - ・平成16年4月、厚生労働省から独立行政法人国立病院機構に移管され、「独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター」に改称された。
 - 平成20年11月に地域医療支援病院として承認され、平成21年4月には大阪府がん診療拠点病院に指定されている。

- 「大阪医療センター附属看護学校」 法円坂2丁目1-14
- 昭和22年(1947)に国立大阪病院附属高等看護学院として開校したもので、修業年限が3年間の看護学科で看護師の養成を行っている。

- 「デイリーカナート・イズミヤ法円坂」 法円坂2丁目1-35
- ・平成27年5月にオープンしたスーパーマーケット。2階に「ドン・キホーテ法円坂店」がある。

○「法円坂1丁目」

(上町筋から森之宮勝山筋まで、北は中央大通から内久宝寺通までの地域)

「歩兵第8聯隊」

- ・明治30年8月、現・難波宮跡公園の西側半分に新しい兵営が設けられ、上町筋西側の旧兵営から移転してきた。(もと「大阪城南練兵場」の一部)
- ・終戦後、兵営は米軍に接收されて軍需品の処理の後、昭和20年10月に大阪財務局の管理下となり、昭和22年4月にその南側敷地に大阪赤十字病院法円坂分院が置かれる。
- ・現在、難波宮跡公園の南端に兵営南門門柱が遺構として残されており、東側の道路際には「歩兵第八聯隊跡」(昭和50年、歩8会が建立)と「御臨幸之址」(昭和7年、昭和天皇が大阪城東陸軍練兵場での観兵式を御統監された記念碑)がある。

”またも負けたか8聯隊”の俗謡について

”またも負けたか8聯隊、それでは勲章9連隊(くれんたい・京都)、敵の陣屋も10聯隊(岡山)、大阪鎮台へボ鎮台”とうたわれ、歩兵第8聯隊はいつの間にか「弱い部隊」と決め付けられた感があるが、これはソロ盤しか手にしたことがない大阪商人を中心とした部

隊を擲楡(ヤユ)し、8・9・10と数字の語呂合わせをしたもので、真意は”勲章9連隊(くれんたい)”ということを愚痴って歌ったものとも言われている。

実際は、編成直後から萩の乱や西南の役で活躍し、西南の役では明治天皇から直々にその勇敢さを賞されて「戦功ご嘉賞」の詔勅を賜っており、その後も第2次大戦の終戦に至るまで、部隊として戦闘に破れた記録は見あたらず、俗謡の根拠はないとされている。

「大阪陸軍被服支廠」

・明治36年(1903)、東京の陸軍被服廠内に大阪支廠が設置され、翌37年5月に大阪城南練兵場内(馬場町から現・難波宮跡公園の東側半分の地)に庁舎が新設されて移転してきた。明治41年に大阪陸軍被服支廠と改編され、軍服・軍靴の製造・調達・貯蔵を担った。

・昭和20年の大空襲により大部分が焼失、その後、大阪財務局の管理下に置かれて、昭和27年には南側半分が大阪市住宅協会に払い下げられて市営住宅となった。

北側には、その後、国立衛生研究所・大阪支所、大阪市教員会館などが置かれた。

「近畿管区行政監察局」

・昭和27年8月に設置された総務省所管地方局で、昭和35年5月に「大阪行政監察局」から「近畿管区行政監察局」に改組されこの地にあったが、平成13年1月には「近畿管区行政評価局」と改称され、現在は大手前4丁目の大阪合同庁舎第2号館に移転している。

「大阪赤十字病院・法円坂分院」 法円坂1丁目6-74

・大阪赤十字病院は、日本赤十字社大阪支部病院として、明治42年5月、天王寺区筆ヶ崎に設立されたが、戦後、連合軍に接收されたこともあり、昭和22年4月にここ(もと歩兵第8聯隊跡の南部分)に移転した。

昭和31年4月に元あった筆ヶ崎に復帰し、この地には法円坂分院として精神神経科のみが残されていたが、昭和50年8月に精神神経科も筆ヶ崎の本院に移転された。

・現在は、「難波宮跡公園」となっている。

「大手前整肢学園」 法円坂1丁目6-74

・整肢学園は、手足や身体の不自由な児童を通園させ、整形外科的治療とともに機能訓練を図って社会生活に適應できるように学校教育や生活指導を行うことを目的とした児童福祉施設と医療法に基づく病院機能を併せもっている。

・「大手前整肢学園」は、昭和42年(1967)4月、大阪府が法円坂町に開設し日本赤十字社が受託運営を行っていた。

・平成16年3月、大阪赤十字病院東館1～3階(天王寺区)に移転し、平成19年には日本赤十字社に移管され、「大阪赤十字病院附属大手前整肢学園」となっている。

「大阪労働基準局」

・昭和22年9月に地方における労働基準行政を司る機関として、この地(大阪赤十字病院・法円坂分院の北側)に「大阪労働基準局」が設けられた。中央省庁再編に先立つ平成12年4月に「大阪労働局」として改組されており、現在は、本庁を大阪合同庁舎第2号館(大手前4丁目)、分庁を中央大通FNビル(常盤町1丁目)に置いている。

・大阪府内の労働基準監督署とハローワーク(公共職業安定所)を統括しており、その名称から大阪府の部局に誤解され易いが、国(厚生労働省)の出先機関である。

「大阪市住宅協会・法円坂住宅」(現「コーシャハイツ法円坂」)

・戦後の住宅問題を解消するため、昭和26年1月に「大阪市住宅協会」(現「大阪市住宅供給公社」)が発足し、もと大阪陸軍被服支廠の跡地を国から譲り受けて、昭和38年(1963)に2階建～8階建て鉄筋住宅34棟からなる法円坂住宅団地が完成した。

<参考> カッコ=管理開始時期

1～2期(昭和26年)=1～10号棟。240戸

3期(昭和29年)=14～21・23・24号棟。58戸

4期(昭和30年)=25～27・30・31号棟。96戸

5期(昭和33年)=32号棟。112戸 7期(昭和38年)=34号棟。12戸

・老朽化等から大阪市住宅公社(愛称:「大阪市住まい公社」)において建替計画がたてられ、平成20年1月、14階建て賃貸マンション「コーシャハイツ法円坂」35号館(104戸)・36号館(111戸)が竣工し、次いで平成25年11月に地域優良賃貸住宅として13階建・93戸の37号館が竣工している。㊦ 地域優良賃貸住宅は、高齢者世帯、障害者世帯、子

育て世帯等、各地域における居住の安定に特に配慮が必要な世帯の居住の用に供するもの。
・なお、西側の土地は難波宮跡公園の一角になっており、北側土地は平成25年に史跡指定されているため、大阪市への売却が予定されている。

「パル法円坂」(もと「大阪市教員会館」と「アネックスパル法円坂」 法円坂1丁目1-38・35(中央大通りの南沿い)

- ・「大阪市教員会館」は、昭和28年(1953)に設立された教職員の福利厚生施設で、貸会議室・ホール・宴会・結婚式場等が設けられていた。
- ・昭和58年に建て替えられ、名称も「パル法円坂」と改称された。
- ・西隣りには、青少年の健全な育成を図る施設として、昭和46年(1971)7月に「大阪市立中央青年センター」(7階建のA棟と5階建のB棟)が建設されていたが、平成22年に7階建ての「アネックスパル法円坂」として模様替えされ、「パル法円坂」と一体的に運営されている。なお、同ビルの6階には「大阪文化財研究所」が、4階には「ボーイスカウト大阪連盟」の事務局が入室している。

「国立衛生試験所・大阪支所」 法円坂1丁目1

- ・法円坂住宅の北側・東寄りに昭和27年(1952)12月、「国立衛生試験所・大阪支所」が設置された。官営の医薬品試験機関として京橋3丁目にあった「大阪衛生試験所」が、昭和20年の大空襲で焼失して一時廃止されていたが、名前を変えて再興されたもの。
- ・その後、平成9年7月には「国立医薬品食品衛生研究所・大阪支所」と改称され、平成16年4月に茨木市に移転した。現在、その跡地は空地になっている。

「難波宮跡公園」

- ・大正2年(1913)、近畿電気通信局(馬場町)周辺の工事で地下3mの地層から奈良時代の瓦が、また、昭和28年には市営法円坂住宅の建築現場から鴟尾(しび)が発見され、これをきっかけに昭和29年から大阪市立大学教授・山根徳太郎博士を中心として発掘調査が行われた結果、昭和36年(1961)に飛鳥から奈良時代にかけて前後2期の難波宮跡が確認された。

その跡地のうち、宮殿の中心部とされる約9万平方メートル余りの範囲が、史跡公園(昭和39年、「国の史跡」に指定)と定められ、昭和51年3月に一般公開された。

赤いレンガが敷かれその上に赤い御影石で柱位置を示したものが、「難波長柄豊碕宮」(前期難波宮)の宮跡で、地表面より一段高くして石造りにより灰色で示された場所が、「後期難波宮」の宮跡を表示している。

現在、前期難波宮の八角形建物や後期難波宮の大極殿基壇(東西約42m、南北約21m、高さ約2m)などが復元されている。



「メロディーハイム法円坂」

- ・昭和59年(1984)2月に竣工した15階建の分譲タワーマンション。総戸数は148戸。

⑨ ここでは、原則として、マンションについては15階建て以上の高層マンション、ホテルについては客室数100室以上のホテルを対象として取り上げることとする。

○「馬場町」

(大阪城公園の南、中央大通との間の地域)

「大阪陸軍被服支廠」「同・被服倉庫」

・本町通りから南、法円坂1丁目にかけての東側は、大阪陸軍被服支廠および同・被服倉庫が置かれていた。…「法円坂1丁目」の項を参照

「大阪陸軍城南射撃場」

・大阪城外濠の南側(現在の教育塔から豊国神社にかけて)には、大阪陸軍城南射撃場があった。現在、本町通り沿いの一角に置かれた「城南射撃場跡」碑の裏面には、「城南射撃場は、昭和7年5月陸軍によって建設。戦後は陸上自衛隊に引き継がれ、隊員の訓練などに供されていた。昭和43年11月、大阪市の緑化100年運動の一環である大阪城公園の整備推進に協力し、撤去された。昭和44年5月 大阪市」と記されている。

「大阪郵政局・大手前倉庫」

(大阪中央放送局の西隣)

・昭和20年の大空襲で焼け残った大阪陸軍被服支廠の被服倉庫(鉄筋コンクリート3階建)が払い下げられ、倉庫として使われていたが平成のはじめに撤去された。

「大阪中央放送局」(大阪放送会館)

・大阪放送局(JOBK)は、大正14年(1925)2月に設立され、6月に三越屋上から仮放送を開始した。そして、昭和11年(1936)11月、馬場町に大阪放送会館が完成している。地上6階+塔屋3階・地下1階建て。塔屋38mを含め総高さは62m。

・昭和29年には、大阪テレビ局の本放送が開始され、昭和35年からはカラーテレビ本放送が開始された。

テレビ放送が開始されると本館だけでは狭隘になったため、昭和32年4月、敷地東側にテレビ専用スタジオの「別館」が建設され、昭和38年4月には本館南側に地上4階・地下1階建ての「新館」が増築された。

なお、この新館の建設工事中に難波宮跡の発掘が行われている。

・馬場町に所在したことから、コールサインである「JOBK」について、「ジャパン・オオサカ・バンバチョウ・カド」の略であるというジョークが囁かれた。

・戦時中には、中部軍司令部・通信参謀の指示で、塔屋頂上部に高射砲が置かれ、屋根には焼夷弾を滑落させる目的で青竹製の傾斜した屋根が組まれていたという。

・平成13年、西隣の大手前4丁目に新しい「NHK大阪放送会館」が新設されたことにより、古い大阪放送会館は、平成14年に解体撤去され、現在は更地になっている。



「大阪府農林会館」南側

・大阪府信用農業協同組合連合会が土地を無償提供する代わりに大阪府が約3億円をかけて建設したもの(地上6階、地下1階建)で、連合会が昭和35年から平成22年まで本所を置いていた。本所は、現在、高麗橋3丁目のJA大阪センタービルに移転している。連合会が退去後の会館は閉鎖され、廃墟化していたが、平成25年に解体された。

・大阪府信用農業協同組合連合会は、大阪府内の農業協同組合を会員とする金融機関で、昭和23年(1948)8月に設立された。

「大阪市東保健所」

・東保健所は、谷町小児健康相談所内に設置されたのが最初であるが、戦災で焼失し、戦後の「新保健所法」制定(昭和22年)で大程保健所東支所として改組され、昭和26年に北保健所東支所に移管された。

・昭和34年4月、北保健所・東支所が独立して「東保健所」となり、中央大通沿いのこの地に新庁舎が出来て移ってきたが、昭和41年12月、南農人町に移転した。(その後、保健所体制の改定で、平成15年からは、各区役所の保健福祉センターとなっている。)

「NTT西日本本社ビル」(もと近畿電気通信局) 馬場町3-15

・昭和24年に電気通信省が設置された時、その地方機関として近畿電気通信局が設立され、その後、日本電信電話公社・近畿電気通信局となったもので、その庁舎として昭和44年に14階建てのビルが竣工した。

・昭和60年4月、公社の民営化後は「NTT関西総支社」となっていたが、平成11年7月

のNTT再編成によって、「(株)NTT西日本」が設立され、その本社ビルとなっている。西日本地域における市外通話および市内通話などの固定電話サービスおよびIP網サービス(フレッツ)等の地域電気通信事業を所管している。

「NTT西日本馬場町ビル」

昭和37年に本社ビル西隣(もと東電話局跡)に竣工した7階建てビル。

「KKRホテル大阪」(大阪共済会館) 馬場町2-24

・昭和39年にオープンした国家公務員共済組合連合会(KKR)が運営するホテル。

平成3年竣工の14階建てで、客室数は136室。

7階~11階が客室で、その他のフロアにはチャペルやレストランがある。

「メゾン・ド・ヴィレ大阪城公園前」 馬場町1-8

・平成15年4月竣工の地上24階・地下1階建て賃貸高層マンションで総戸数は183戸

<参考図>

大阪城内および周辺部の陸軍関連施設…大正3年(1914)頃



- ・城内 ① 第4師団司令部
- ② 大阪衛戍監獄
- ④ 大阪陸軍兵器支廠
- ③ 同 桜門前兵器庫
- ⑥ 同 城内北兵器庫
- ⑦ 同 青屋口門兵器庫
- ⑧ 第4師団経理部
- ⑨ 第4師団・軍楽隊
- ⑩ 大阪砲兵工廠
- ・周辺部 ⑪ 偕行社付属小學校
- ⑫ 大阪偕行社
- ⑬ 大阪衛戍病院
- ⑭ 第四師団乗馬厩
- ⑮ 輜重兵第四大隊→大正9年(1876)5月、⑳に移設
- ⑯ 第4師団長官舎
- ⑰ 大阪陸軍兵器支廠・大手門前兵器庫
- ⑱ 大阪聯隊區司令部
- ⑲ 野砲兵第4聯隊
- ⑳ 步兵第37聯隊
- ㉑ 步兵第8聯隊
- ㉒ 第4師団長官舎
- ㉓ 大阪陸軍被服支廠
- ㉔ 同 被服倉庫